

Sustainability Report 2023

最も人を思い、最も信頼に応える投資会社を目指して

自らESGを実践しつつ、 投資先のESG推進をサポートする。 これからの投資会社の あり方の一つです。

アント・キャピタル・パートナーズ株式会社
代表取締役社長 飯沼良介

Ant Capital Partners Co., Ltd.
27f, Marunouchi Building, 2-4-1 Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-6390
+81-3-5488-6390
Representative Director and President : Ryosuke Inuma
<https://www.antcapital.jp/>

プライベート・エクイティ業界全体でESG^{*1}に力を入れる機運が高まっています。プライベート・エクイティの業界団体で、私も理事を務めている日本プライベート・エクイティ協会 (JPEA) には従来、会員のサポートやJPEA自体の拡大を後押しするためにナレッジシェアリング委員会、PR委員会、会員拡大・交流委員会の3つの委員会がありましたが、このほどESG委員会の設置が決まりました。ESGが世界的な関心事となる中で、業界団体として、例えば雇用をどれぐらい増やしているのかといった統計をきちんと公表していくことが大切だと考えています。

アント・キャピタル・パートナーズ株式会社は2022年2月にオフィスを丸の内ビルディングに移転したのですが、電力は再生可能エネルギー由来に切り替えられていて、トイレトペーパーもオフィスから出た紙を再生させたものが使われています。丸ビルの所有者は三菱地所さんですが、こうした取り組みをされているオフィスで働くことで、当社の社員もESGの大切さを肌で感じられます。ESGの取り組みの中で企業が価値を高め、それが受け入れられていく一つの典型でもあると思っています。

当社のミーティングルームのホワイトボードは、オフィス移転以前から日本理化学工業さんと



いう会社のチョークが使えるものになっています。この会社は障がい者雇用に積極的で、社員の約7割が知的障がいを持つ方々です。このチョークは水拭きで消す必要があるのですが、各ミーティングルームに水拭きのための水を用意し、また毎日交換する手間もかかります。当社では社員が当番制で毎日ミーティングルームを清掃するのですが、日本理化学工業さんで働く方々のことを思えば、その手間も手間とは感じられません。このホワイトボードは、社員全員でESGを実践することを理想とする私の最大のこだわりです。

投資会社のこれからのあり方の一つとして、

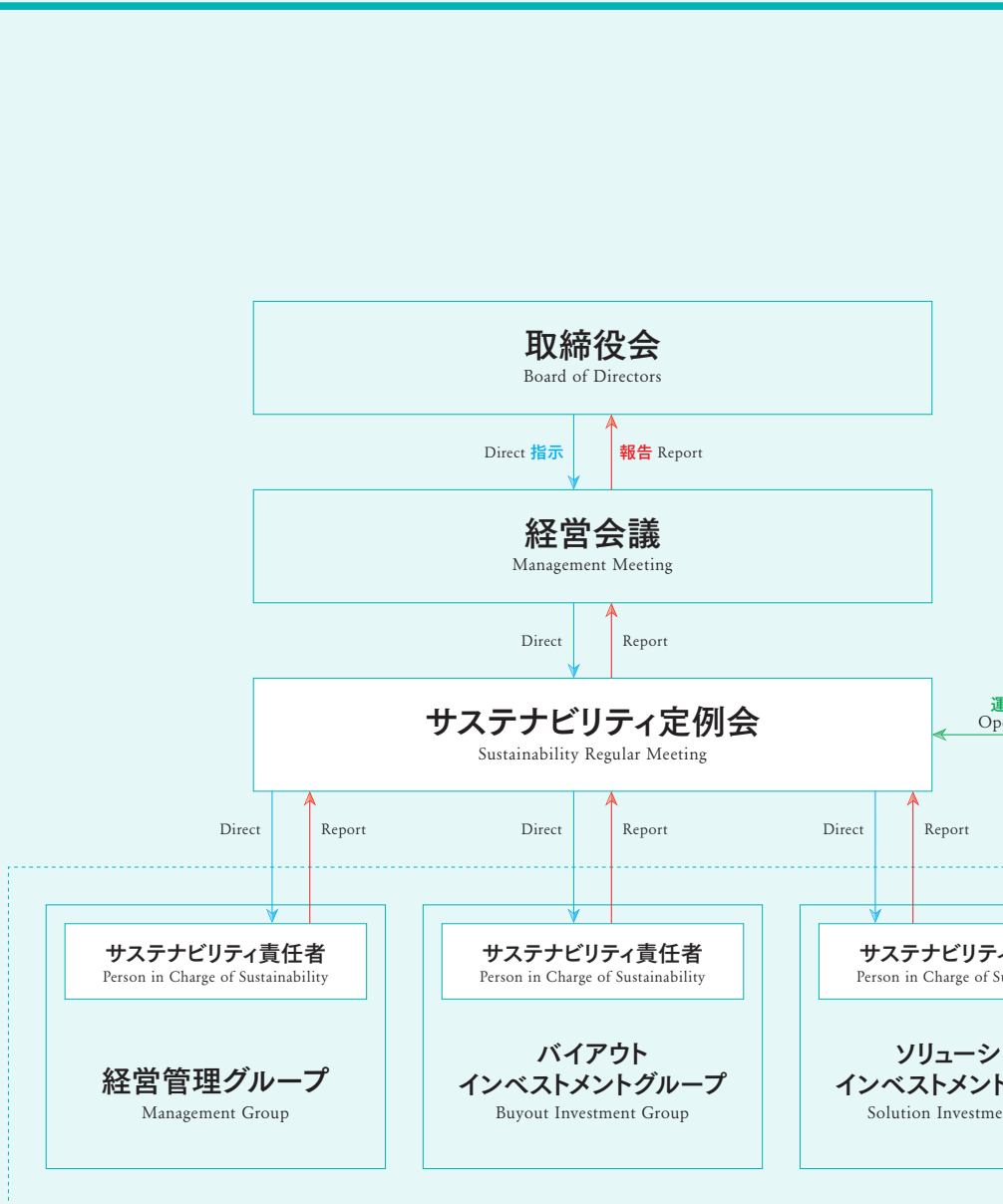
自らもESGを実践しつつ、その経験を活かしながら投資先のESG推進をサポートし、投資先で実現した内容を評価してもらうという流れがあると思います。ESGが社会的な関心事となっている今、当社としても、そのような方向で投資先の成長を後押ししていくことが大きなミッションの一つだと考えています。

*1 ESG=環境/Environment、社会/Social、企業統治/Governance



サステナビリティ推進体制

Sustainability Promotion System



2016年の国連責任投資原則 (PRI) 署名を機に、アント・キャピタル・パートナーズでは責任投資ポリシーを作成し、それに基づいた投資活動におけるESGリスク管理を強化し、体系的に進めてきました。また、2021年には、自社及び投資先企業におけるサステナビリティ推進を目的に、「サステナブルグロース支援室」を投資グループとは独立したチームとして設置しています。

2022年には当社のサステナビリティ推進の手順書となる「サステナビリティ管理ハンドブック」を作成、運用を開始し、社員全員に対して、周知・教育を行っています。このハンドブックに

おいても強調しているのは、当社のESG対応、サステナビリティ推進は、サステナブルグロース支援室といった専門部署のみが実施するものではなく、投資フロントメンバーを含む社員全員で対応していくものであるということです。

上記のような考え方も踏まえ、社内各グループより、サステナビリティ責任者を選任しています。同責任者は、各グループのサステナビリティ活動をリードする役割を担っている他、月次のサステナビリティ定例会に出席、社内及び投資先企業におけるサステナビリティ推進の方針や施策について協議をしています。

ケーススタディ (投資先企業の取り組みご紹介)

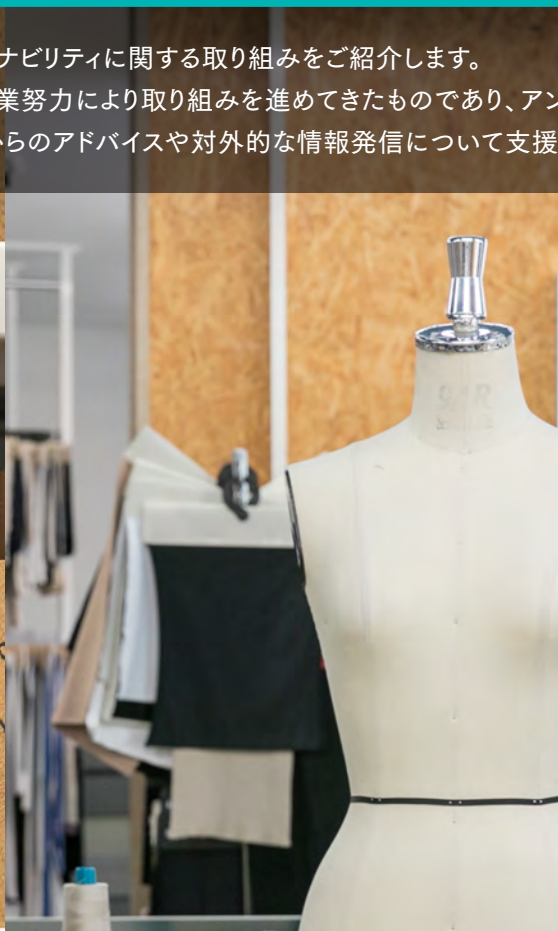
Case Studies (Portfolio Company Initiatives)

こちらでは、投資先企業におけるサステナビリティに関する取り組みをご紹介します。
いずれも、投資先企業自体の発案や企業努力により取り組みを進めてきたものであり、アント・キャピタル・パートナーズからは、これら取り組みについて、専門的知見からのアドバイスや対外的な情報発信について支援を行っています。



Case Study
1

Maruhon
株式会社マルホン
(カタライザー4号投資先)



Case Study
2

Fenix International
株式会社フェニックスインターナショナル
(カタライザー5号投資先)



Case Study
3

Amino
株式会社アミノ
(カタライザー5号投資先)



Case Study
4

Inoda Coffee
株式会社イノダコーヒ
(アント・ブリッジ5号投資先)

株式会社マルホン MARUHON INC.

フェアウッドで繋ぐ、木と人の豊かな絆

☑2016年に独自の「木材調達デューデリジェンスプログラム」を策定

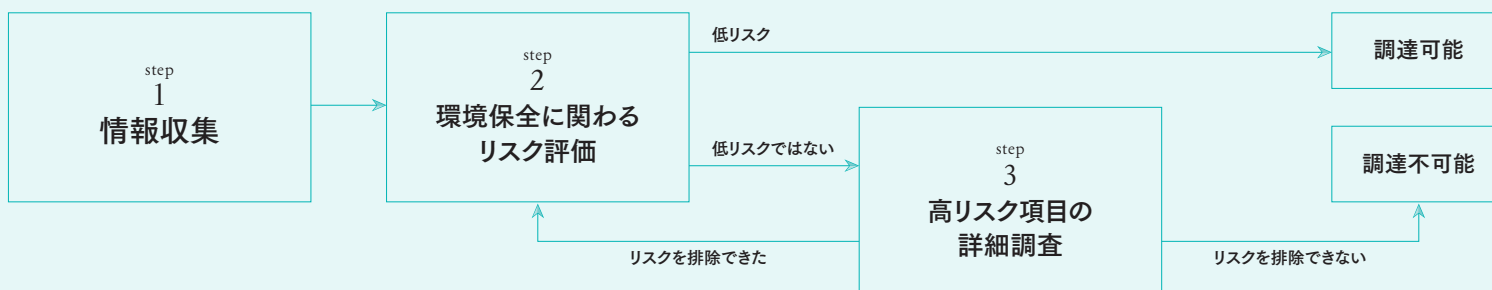
☑2018年4月、業界に先駆け「クリーンウッド法」に登録を行う

1295 Nagashima, Hamakita-ku Hamamatsu-shi,
Shizuoka-ken 434-0013
+81-53-587-0711
President: Yukinori Matsuura
<https://www.mokuzai.com/>

フローリングなどの木質建材の開発・製造・販売を手掛ける株式会社マルホン（本社：静岡県浜松市、代表取締役社長：松浦幸徳）は、違法伐採防止の観点から率先して独自の「環境にやさしい木材調達デューデリジェンスプログラム」（図参照）を策定した企業として知られます。



図：「環境にやさしい木材調達デューデリジェンスプログラム」のプロセス



もともと地元の天竜材を扱う木材問屋として1934年に創業した老舗企業ですが、1986年から北米産広葉樹の輸入を開始したのを皮切りに輸入先を広げ、現在までに海外からの木材調達を主とした企業に変革。これに伴って、2006年に森林管理の認証を行う協議会であるFSC®（Forest Stewardship Council

＝森林管理協議会）^{*1}と森林認証制度であるPEFC（Programme for the Endorsement of Forest Certification＝森林認証相互承認制度プログラム）^{*2}のCoC（Chain of Custody＝加工、流過程の管理）認証^{*3}を取得しています。

こうした環境配慮型経営に対する土壌が同社にはあり、2015年6月にアント・キャピタル・パートナーズが出資した後も、引き続き環境問題に対する取り組みを強化し続けました。2016年9月に、まず責任ある木材調達と製品づくりに向け前述のデューデリジェンスプログラムを欧州や豪州の事例を参考に自社で策定しました。そして、デューデリジェンスプログラムに基づき各商品のリスク評価を行い、合法性が完全には担保できなかったミャンマーチークや

カリなどいくつかの樹種の商品調達を停止しました。

さらに、同年11月に発行した自社カタログ「木材見本帖第7号」において、それらの樹種商品を廃盤・未掲載としたことで、掲載全商品の調達に対して「持続可能な木材資源保持のための取り組み」を実施していくことを宣言しました。

2017年5月20日に施行された合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（いわゆるグリーンウッド法）^{*4}に対しては、施行翌年の2018年4月18日付で登録業者になるなど、業界を率先して違法伐採防止に取り組んでいます。

こうした企業姿勢も評価いただき、マル

ホンは2022年9月末に私どもアント・キャピタル・パートナーズの下を離れ、積水ハウス株式会社（本社：大阪府大阪市、代表取締役：仲井嘉浩）様の子会社となりました。マルホンが2020年5月に子会社化した、国産材を使った家具製造・販売を手掛ける株式会社ワイス・ワイス（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：松浦幸徳）も積水ハウス様の傘下となっています。積水ハウス様からマルホンに出向した松浦幸徳社長に伺いました。

——積水ハウス様がマルホンの全株式を取得しました。

住宅分野に限らず、お客様の本物志向が高まっています。住宅では床、壁、天井などのイ



ンテリアを構成する素材に関して、デザイン性や価格だけでなく、快適性や経年変化を楽しめる本物素材へのニーズが高まっています。このため積水ハウスでは、以前から無垢フローリングなどでマルホンの製品を多く使用してきました。

積水ハウスは大量の木材を使用するハウスメーカーであり、原材料の調達にあたっては、持続可能性や生物多様性に配慮することを大前提としています。2007年4月には伐採地住民の暮らしまでも視野に入れた「木材調達ガイドライン」^{*5}を策定し、改訂を重ねながら「フェアウッド」の利用を進めています。マルホンは木材調達で、独自の木材デューデリジェンスに取り組むなど高い意識を持っていて、それは積水ハウスの「木材調達ガイドライン」にも合致して

います。環境への配慮と高い商品力を両立させたマルホンと、マルホンの子会社であるワイス・ワイスの取り組みは、他社には容易に真似できないものだと考えています。

※1 FSC認証 <https://jp.fsc.org/jp-ja>
 ※2 PEFC（英語サイト） <https://www.pefc.org/>
 ※3 CoC認証 https://jp.fsc.org/jp-ja/CoC_certification
 ※4 クリーンウッド法（合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律）
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono_fiber/gouhoumokusai.html
 ※5 木材調達ガイドライン
https://www.sekisuihouse.co.jp/company/sustainable_2020/environment/biodiversity/activity2/act_1/



ワイス・ワイスも「グリーンカンパニー宣言」

2020年5月にマルホンの子会社となったワイス・ワイスも違法伐採防止に取り組んでいます。2009年にオリジナル家具に使用する木材のトレーサビリティを確認し、森林認証材や合法木

材を主に「フェアウッド」を使用することを柱とする「グリーンカンパニー宣言」を行いました。2017年にはFSC®のCoC認証を取得。2018年には家具製造販売業界では初めてグリーンウッド法の登録業者として認定されています。



株式会社フェニックスインターナショナル

FENIX INTERNATIONAL Co., Ltd.

モノづくりを正しく突き詰めると、 自然とサステナブルにたどり着く

☑ 2022年、中国の2工場が労働環境基準の国際基準認証を獲得

☑ 閑散期に使用する糸素材を180種類から70種類へリデュース

Hiroo MTR Building 6F,
2-36-13 Ebisu, Shibuya-ku, Tokyo 150-0013
+81-3-5488-6390
CEO & Representative Director : Hiroki Wakisaka
<https://fenixtyo.com/>



株式会社フェニックスインターナショナル(本社:東京都渋谷区、代表取締役:脇坂大樹)は国内外のアパレルブランドを取引先としたOEM(他社ブランド製品の製造)を主力事業としています。2022年には同社の中国2工場が国際的な労働環境基準であるSLCP(Social and Labor Convergence Program=労働環境基準統合プログラム)の認証を受けるなど、サステナビリティやSDGs(持続可能な開発目標)に配慮した取り組みを進めています。脇坂社長に話を伺いました。

——脇坂社長のサステナビリティについての考えについて教えてください。

もの作りを正しくやろうと、エシカル(ethical=倫理的)にしていけばいくほど、もの作りはサステナブルになっていくと考えています。

アパレルという業界には、お客様であるブランド側と生産を担う我々の間に強力な上下関係があります。特に日本ではこの傾向が顕著です。パートナー的で対等な関係を基本にしたもの作りをするヨーロッパで仕事してきた私にとって、上下関係はどうしても好きになれません。

昔から買い手側の一方的な論理で、言い方は悪いかも知れませんが痛めつけられている工場を見してきましたが、やはりものを作る場所がきちんと機能しないと良いものは作れません。

これが、良いものを作ってお客様に喜んでいただくことを信条とする私の基本的な考え方です。工場がきちんと機能するように段階を踏んで一つ一つ整備していくと、自然と労働環境やできあがる製品がサステナブルになっていくのだと思います。

——中国の工場が2022年に国際的な労働環境基準であるSLCP(Social and Labor Convergence Program=労働環境基準統合プログラム)の認証を受けました。

認証を受けたのは、中国・江蘇省蘇州市にあるディーマ(DIMA:蘇州荻馬針織服装有限公司)とチャンマ(CHANGMA:蘇州飛呢長馬針織服装有限公司)という2工場です。我々

180 → 70

Yarn types



閑散期は、企画力、編み方、洗いの工夫により使用する糸素材の種類をリデュース

の中国の工場は、出稼ぎ労働者の多い現地では珍しく、地元の人たちが仲良く和気あいあいと働いています。この良い雰囲気をそのまま維持するために、まずは労働環境や労働条件をきちんと整えることが大切です。できるだけ残業をさせず、残業した場合は残業代をきちんと支払う。当たり前のことをきちんとやることから始めました。人権への対応は非常に大切です。

SLCPの認証を受けてから、働く人たちにも「自分たちの職場は他の工場と比べて先進的だ」という意識が生まれ、エネルギーにしても太陽光に替えようとか、輸送のトラックを電気自動車に替えようといったような、環境配慮に関するアイデアが、彼らから自発的に出されるようになりました。これには正直驚いており、喜

ばしい変化です。

——閑散期(2~6月)生産の糸の種類を180種類から70種類に減らしました。

素材を共通化していくと、商品が安定し、品質は上がります。それに比例して手間が減るため、生産性も上がりますし、商品トラブルも減ります。ただし、これは製品が同質化しないように、一つの素材で多くのバリエーションを作るといふ企画力がないとできません。(フェニックスインターナショナルが強みを持つ)ニットの場合は、最終の仕上げで洗い方を変えることで風合いを変える、編み方を変えることでバリエーションを持たせるというような工夫をしています。

マーケットニーズではない一部の人の自己満足だけのための、作りづらく時間もコストも



かかるもの作りからは離れたと思っています。しわ寄せはすべて工場が引き受けていますが、お客様も工場もメリットを享受できるウィンウィンの関係を構築しないと持続可能にはなりません。合理的にもの作りをすることでみんながハッピーになれると信じています。

——リサイクル素材も使い始めているのですか？

中国の工場のすぐそばに世界的な糸商があって、ここは(サステナビリティで進んでいる)ヨーロッパとの取引も多いので、リサイクルポリエステルとかベター・コットン*などのサステナビリティ素材が揃っています。我々は年間200トンくらい糸を使うのですが、まずは年間20トンくらいを目標に、リサイクル素材に切り替えていこうと思っています。近隣なので輸送に伴うCO2

排出量が削減できます。アパレル業界にはサステナビリティみたいな新たな観点が入ってきて、もの作りはコストと品質だけでは選ばれない時代になってきています。フェニックスインターナショナルは当たり前のことを当たり前やる姿勢で、サステナビリティへの取り組みを続けてまいります。

*ベター・コットン:ベター・コットン・イニシアチブ(BCI)が定める基準に則り、BCIが認定した綿花生産者により栽培された綿のこと。BCIは、綿花生産が抱える環境面・社会面における課題に対処し、持続可能なものとしていくために設立されたNGO。
<https://bettercotton.org/>



Video



株式会社アミノ

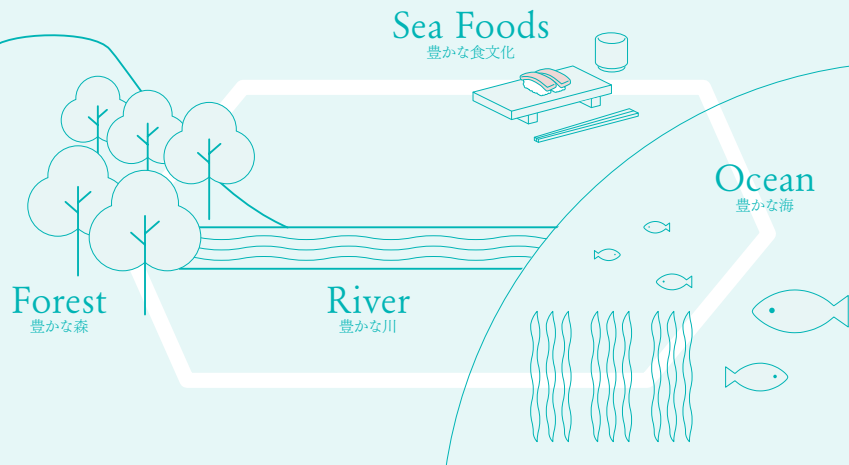
Amino Co., Ltd.

豊かな森、強い森は おいしい寿司の出発点

- ☑ 地元の漁場と食文化を守るための植樹活動を2014年から継続
- ☑ 津波の力を減衰させる「森の防潮堤」づくりに植樹で参加

6-2 Shimbashikita, Koriyama, Taihaku Ward,
Sendai City, Miyagi Prefecture 982-0003
+81-22-302-4944
President : Satoshi Ueno
<https://www.sushikan.co.jp/corporate/>

「うまい鮓勘」などの寿司店を東北地方や北関東、東京都内、東海で展開する株式会社アミノ（本社：宮城県仙台市、代表取締役：上野敏史）は「木を植える鮓屋」を標榜しています。川から海へと栄養分をもたらす山や森は、おいしい寿司の根幹である良質な魚貝類の出発点。海の恩恵を受ける企業として、地元の漁場と伝統の食文化を守るための植樹活動、森づくりを2014年から続けています。植樹活動で出会った高校生や大学生が新卒として入社してくることもあると喜ぶ同社の上野敏史社長に話を聞きました。



— 植樹活動に参加するようになったきっかけを教えてください。

宮城県気仙沼に「森は海の恋人」^{*1}というNPO（非営利団体）があります。カキの養殖漁業家で京都大学でも教鞭をとられている畠山重篤さん（京都大学フィールド科学教育研究センター社会連携教授）という方が代表を務めていて、「海を守るための森づくり」の活動を長年続けています。山と川が豊かでないと、海産物は育たないという発想です。この活動に触発されました。

山の木々が葉を落とし、枯れ葉がバクテリア

によって二酸化炭素と水に分解された後に残った有機物質からフルボ酸という腐植物質ができます。フルボ酸は金属と結びつきやすいため、フルボ酸鉄という物質が生まれます。雨が降るとフルボ酸鉄は川に流れ込み、川の水とともに海に到達します。海では植物プランクトンや海藻が成長に不可欠な鉄をフルボ酸鉄から取り込みます。植物プランクトンは動物プランクトンに食べられ、動物プランクトンは小魚に、小魚はさらに大きな魚に食べられる。この食物連鎖によって、豊かな海が保たれていると信じています。

植樹活動は単なる社会貢献ではなく、寿司



屋としてきちんと海に恩返しをしたいという想いの表れです。

— 山での植樹活動の一方で、東日本大震災の被災地での植樹にも参加しています。

2011年の東日本大震災で、三陸の海岸線は津波によって大きな被害を受けましたが、あの津波に耐えて残った森もありました。その自然の森の力を見て、これまでの通常の防潮堤ではない「森の防潮堤」を作ろうと考えて始めました。新入社員が中心となって20～30人が活動しています。

森の防潮堤は、東日本大震災でできたがれき、土砂で丘を作り、その斜面に植樹して作っています。「植樹の神様」と呼ばれていた、横

浜国立大の名誉教授である故 宮脇昭さんが提唱していた手法で、土砂を土台にしてシイ、タブノキ、カシといったまっすぐに深く根を張る、高低様々な種類の常緑広葉樹を植樹することで、強い森ができるという考え方です。いつまた起こるかも知れぬ津波の力を減衰させる「千年希望の丘」^{*2}の完成に向けて、これからも植樹活動を続けていきます。

※1: NPO法人 森は海の恋人 (<https://mori-umi.org/>)
 ※2: 千年希望の丘 (<https://sennen-kibouno-oka.com/>)



株式会社イノダコーヒ

INODA COFFEE Company Limited

お客様との距離感を大切にしながら、サステナビリティを推進

- ☑ 紙製コーヒー缶採用や紙袋の有償化など環境配慮施策を実施
- ☑ 女性の役員・管理職の積極登用により現場の柔軟性を向上

140 Doyu-cho, Sakaimachi-dori,
Sanjo-dagaru, Nakagyo-ku, Kyoto-shi 604-8118
+81-75-241-0915
Representative President & CEO : Toshitaka Maeda
<https://www.inoda-coffee.co.jp/>



イノダコーヒは、1940年（昭和15年）に初代社長の故猪田七郎氏が現在の本店の場所（京都市中京区）で外国産コーヒーの販売を始め、1947年にコーヒーショップを開いたのに端を発する京都を代表する喫茶店です。現在では京都のほか、広島、横浜、東京に店舗展開しています。ESG推進やDEI*に配慮した職場づくりに積極的な前田利宜社長にお話を伺いました。

*DEI（ディー・イー・アイ）：Diversity（ダイバーシティ=多様性）、Equity（エクイティ=公平性）、Inclusion（インクルージョン=包括性）

——環境への配慮に関連した取り組みについて教えてください。

2020年の7月にイノダコーヒの社長に就任してから、環境に関連して4つのことを実施しました。まず、ギフト・お持ち帰り用のコーヒー缶です。金属製で重厚感もあるのですが、環境に配慮し、紙製のものに変更しました。もう一つは店頭でお客様にお渡ししていたビニール袋を廃止しました。さらに、必要があれば紙袋を有償でお渡しするように切り替えました。また、イノダコーヒ各店舗ではコーヒー以外にソフトドリンクも提供しているため、ストローの需要というのが多くあります。このストローもバイオマスプラスチック製のものに変更しました。

——イノダコーヒでの女性の活躍をどのようにご覧になっていますか。

イノダコーヒとしては女性社員の勤続年数が少しでも長くなり、女性の幹部が増えるのが理想だと考えております。この流れから、2022年には人事部長に女性が就任し、女性の専任の取締役も誕生しました。この女性二人に共通しているのは、現場経験が長く、社員の苦勞も深く理解していて、現場から厚い信頼を得ているということです。イノダコーヒの主戦場はお店です。現場で私が何か偉そうなことを言うよりも、この二人に話してもらう方がスムーズに話が伝わります。そして、私が一番大きいと感じている効果は、女性社員が将来の人事的な目標を具体的に持てるようになったことです。「私



もこういう人物になりたい」と。いずれは女性の社長も誕生するだろうと思っています。

——イノダコーヒを訪れるというのは京都の町文化の一つになっています。

イノダコーヒの店舗には独特の雰囲気があります。BGMは一切かかっておりません。BGMはお客様の談笑と厨房から聞こえてくる食器の音だけです。ホールのスタッフには、自分がして欲しいことを、お客様にもして差し上

げなさいと言っているだけで、あとは自由行動。お客様から、このコーヒーに合うケーキは何かと聞かれたら、主観でこのケーキが合いますと言ってもいい。そういうこともあって、お客様との距離感は、一般的な喫茶店よりは近いかも知れませんが、それが独特な雰囲気にも寄与していて、その雰囲気を気に入ってくださっている常連のお客様は、雨が降っても必ず足を運んでくださいます。イノダコーヒの持つ雰囲気は今後も守っていききたい伝統の一つです。

島田取締役インタビュー

Interview with Director Shimada

——2022年にイノダコーヒで初めて女性として取締役に就任されました。

高校を卒業してすぐに入社してから2023年で34年になります。ホールを志望していたのですが、四条支店B2のレジ・販売担当が最初の仕事です。京都市内に点在する支店や本店を異動しながら店長代理、店長と経験しました。2012年に横浜高島屋支店を新規出店する際にも店長として赴き、8年を横浜で過ごしました。その後京都に戻り、取締役店長として兼務を10年ほどしましたが、昨年兼務が外れ、正

式に取締役に就任しました。

——女性にとって働きやすいと思うポイントがあれば教えてください。

私が入社した当時は女性が本当に少なく、ホールでも男性がメインだったので、逆に私がいることでごく重宝していただいた記憶があります。お客様の中には、男性よりも女性のスタッフに声をかけやすいと思われる方も少なくありません。イノダコーヒのサービスはマニュアルではなく、お客様に喜んでいただくために自分



自身がされて嬉しいことをやっという考え方です。これには、女性、男性、どちらの存在も必要だと考えます。男性社会という会社もあるかと思いますが、イノダコーヒはそういったものをあまり感じない社風で、男女間の壁を感じません。女性ならではの感性で行動し、自由に意見も言えるので女性も働きやすい環境だと思います。

——取締役というポジションで見るイノダコーヒは今までとどう違いますか。

店長のときから一店舗は見ていましたが、今は営業統括として全店舗を見なければなりません。店舗ごとに規模も違えばお客様も違う、スタッフの個性も違います。日々の変化もありながら色々なことを考え、様々なことに対処して

います。

取締役として会社全体のことを考える重責は日々感じます。ただ、店長に初めてなった際にも、店長としてこういうふうにやりたい、こういうふうにはスタッフを守っていききたいなどというスタイルを自分なりに持ってやってきたので、取締役という肩書が付いたとしても、そこは崩さずにやっていきたいと考えています。緑の下の力持ちとして会社やそこで働く人を支えられる人間でありたいというモットー、心構えは忘れないようにしたいと思っています。



アント・キャピタルにおけるサステナビリティ活動

Sustainability Activities at Ant Capital

アント・キャピタル・パートナーズは、創業当初より社員を重要なステークホルダーとして捉え、気持ちよく働ける職場環境を作ることに力を入れています。

2022年には、当社オフィスを移転しました。その際には、事前に全ての社員に対するアンケート調査を行い、現在の業務や職場に対する満足度、新たなオフィスに対する期待の声を集め、

それらを新オフィスの空間づくりに活かしました。

新オフィスでは、投資先企業における、サステナビリティに配慮した商品やサービスも取り入れています。ミーティングルームで存在感を放つ無垢素材の大きなテーブルはマルホンのものです(マルホン:P.04-05)。また、天井の塗装は、TS東京に施工を依頼しました。TS東京の天井塗装は、オフィスビルの改装時に天井の張替え工

事を不要にすることができるため、改装に伴う廃棄物の発生削減につながりました(TS東京ウェブサイト:<https://ts-tokyo.co.jp/>)。

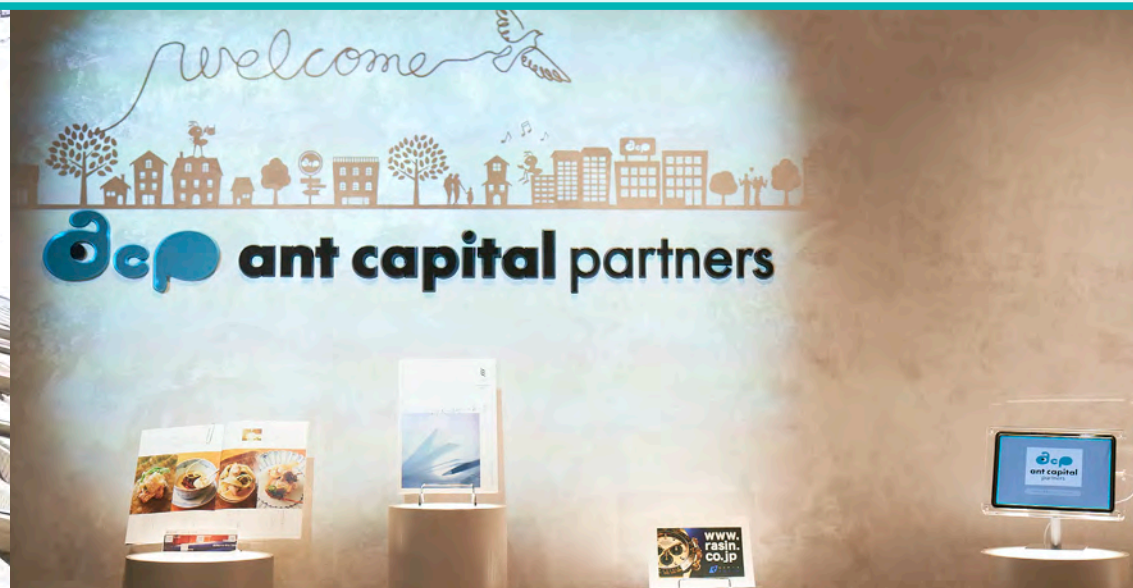
2022年からは、自社の人的資本に関する指標を設定し、モニタリングを開始しました。本モニタリングは今後投資先企業でも広げていきたいと考えていますが、まず自社として取り組み、課題にも対応していきます。

【人的資本に関する指標例】

- 退職者数
- 平均賃金
- 有給休暇取得率
- 育児休業取得率

アント・キャピタル・パートナーズについて

About Ant Capital Partners



投資件数 100社以上 **Over 100 Companies**

ファンドコミットメント
累計金額 2000億円以上 **Over ¥200 Billion**

業 歴 24年 **24 Years**

弊社は、2000年に設立した国内プライベート・エクイティ・ファンドの草分け的存在で、これまでにパイアウトインベストメントグループ、ソリューションインベストメントグループ合わせてその運用額は2,269億円にのぼります。
創業以来の徹底した投資先企業へのハン

ズオン支援や資本構成の再構築支援（非公開化を含む）に加え、ESG・SDGsへの対応、AI/DXの活用・推進、海外特にアジア展開等を積極的に支援することにより投資先会社の企業価値を高め、高いパフォーマンスを確保する投資戦略をとってきています。

- Company name アント・キャピタル・パートナーズ株式会社
- Established 2000年10月
- Representative Director and President 代表取締役社長 飯沼良介
- Location 〒100-6390 東京都千代田区丸の内二丁目4番1号 丸の内ビルディング27階
- Business description 未上場株式などへの投資業務および投資事業組合の運営管理業務
- Shareholders 農林中央金庫、三井物産企業投資株式会社、役員員

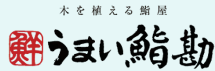
投資先企業の紹介

Our Portfolio Companies

Buyout
Investment
Group



髯APEXホールディングス
循環器・心臓外科領域に特化した
医療機器の販売卸及び修理等



髯アミノ
回転寿司店・寿司料理店の
運営会社



髯アミックス
出張型修復サービス
フランチャイズの運営
ビル内外装リフォーム事業の運営

Solution
Investment
Group



髯アートワークスタジオ
オリジナル照明・インテリア雑貨の
輸入卸、インテリアショップ、
Webショップの運営



髯UPPGO
パフォーマンス
マーケティング事業

独立の
味方です。 **アントレ**



髯ヴィ・エス・テクノロジー
マシビジョン用の光学レンズ、
光学部品、照明装置の
開発、設計、製造



髯JULIA IVY
アイブロウソリューション技術
「HOLLYWOOD BROW LIFT」の
提供及び専用商材のEC販売



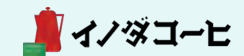
髯プラウトインベストメント
活魚・鮮魚の卸売事業
及び地魚・純米酒・活イカ・串焼等の
業態別外食事業



髯磯部鐵工髯
特殊鋳物・
産業用機械装置製造業



髯イーナ
自社EC「家具350」の運営
及び家具の企画・販売、
Webマーケティング支援



髯イノダコーヒ
喫茶及びレストラン、
各国産コーヒー
自家焙煎及び販売等



髯ソフトブレン髯
CRM/SFAの開発・販売。
子会社にてフィールド
マーケティング事業ほか



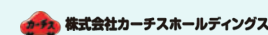
髯デザインワード
髯エッセンシャル
ネイルスクール、
ヘア&メイクアップスクールの運営



髯ニューオークボ
生パスタ・スパゲティ・マカロニの
製造販売及び
生パスタ専門店の運営



髯ビーライン
市販用タイヤ・ホイールの
販売事業



髯カーチスホールディングス
国内中古車販売



髯交通電業社
公共交通機関向け
表示器製造業



髯セレンディップ・ホールディングス髯
経営受託
及び事業再生、投資事業、
経営コンサルティング業



髯フェニックスインターナショナル
ニットウェアを中心とした
アパレル製品の
企画・製造・輸出入・卸売



髯ムーンスター
大手靴製造・卸・販売



髯メック
医師国家試験対策予備校、
大学医学部向け教育支援、
医師国家試験対応模擬試験作成、
出版、医師人材紹介業の運営



髯羅針
中古高級腕時計の
買取・販売事業



髯東日本技術研究所
システム受託開発・
組込ソフトウェア業



髯ビー・ワイ・オー
居酒屋、定食業態の運営



髯ムスベル髯
結婚相談所の運営事業

2023年3月末時点

Vision

世界で最も人を思い、最も信頼に応える投資会社になる

Striving to be the most people-oriented and trustworthy investment company in the world

- 投資先企業の大切な思いと真摯に向き合い、最良の未来を築く
- 誰よりも投資の意義を問い、時代のニーズを捉えた新たな価値創造に挑む
- 個を尊重し、高め合い、熱意を持って限界を超える

